

実施報告書No. 2

1. 学校名 古川町立古川中学校

2. 実施内容

【地域素材のVODデータベースの構築】

・理科、地域素材特に地学領域

郡の中学校理科部会では、本郡内の地学領域を中心とする地域素材のデータベースをつくろうとしている。そのデータの一部をVODデータベースの構築と考えた。本校下には、古い岩石から飛騨片麻岩、船津花崗岩、手取層、濃飛流紋岩、大雨見山火山岩類などの古生代から中生代を代表する岩石、地層がある。それらをビデオ及びデジタル画像で収集した。また、中学校理科1年生で学習する火山について、すぐ近くにある活火山「焼岳」について、夏休み、登山してデジタルデータを収集した。

【高速大容量回路を用いた学校間等の連携】

・海外との交流

本校では、2年生の希望者全員で夏休みに海外研修を行っている。昨年度から海外研修をシンガポール・マレーシアに変更した。その理由の一つは、IT先進国であるシンガポールの中学校とのメール等での交流を行うためである。そのため、海外研修を希望する2年生は、選択教科で、英語コミュニケーションコースを選択し、その中で、メールのやりとり、英語での文章表現などを学習してきた。

しかし、昨年度交流してきた St. Joseph's Institution が学校行事の関係で交流できなくなり、当初予定していたメールでの交流ができなかった。1学期の終わり、ようやく St. Gabriel 中学校との交流ができることになり、生徒自身による事前交流はできなかったが、夏休み海外研修終了後、お礼などでメールの交流ができた。また、現地添乗員さんにも、シンガポール、マレーシアとも、メールでの発信ができた。同様に、海外研修で訪問したシンガポールの Clair（自治体国際化協会）にも発信ができた。

・小中交流におけるテレビ会議システムの活用

本校下にある古川西小学校の5年生が、「米」についての総合学習を行っている。児童の学習の中で、海外の米について調べたいと本校に連絡があった。そこで、本校の ALT のロジャーさん（カナダ人）に聞きたいこと、海外研修で、シンガポール・マレーシアに行き、現地でホームビジットし、現地の米を食べてきた生徒の意見を聞くことになった。ロジャーさんは昼休み、生徒は海外研修のまとめをやっている時間にテレビ会議を利用して、気軽に交流できた。

3. 実施時期

地域素材のVODデータベースの構築

・理科、地域素材特に地学領域

平成14年8月

高速大容量回路を用いた学校間等の連携

・海外との情報交流

平成14年7月～9月

・小中交流におけるテレビ会議システムの活用

平成14年9月

4. 成果と課題

【地域素材のVODデータベースの構築】

・理科、地域素材特に地学領域

今学期は、データ収集段階であった。各データは集めたが、その中から、どう編集するか、また、どのように説明書きを加えるか検討して行かなければならない。

【高速大容量回路を用いた学校間等の連携】

・海外との情報交流

パソコン室で、相互にメール交換を研修、その後、海外へ発信した。パソコン室では、リアルタイムだったこと、日本語ということから、言葉の壁がなかったことから、簡単にできたが、実際に外国の中学校等と交流をする場合、メール操作というより、英語という壁がある。「I like 〜」というような簡単な文章であったが、生徒自身は、いろいろと伝えようとしたことがあっても、それを英語にできないもどかしさがあった。また、相手から来るメールも、英語であり、それを訳するというタイムラグが存在した。しかし、英語学習という点から見れば、大変有効であると考えられる。掲示板等のリアルタイムの交流は難しいけれど、時間的余裕のある中で、英語と日本語の変換をしながらおこなっていききたい。

・小中交流におけるテレビ会議システムの活用

古川西小学校まで、2 km ほどであるが、実際に行ったり来たりすると、授業時間1時間を使用する。直接見聞きする場合もあるけれど、ちょっとしたことならば、テレビ会議を利用して、5分ほどですませるほうが効率的であった。ALT のロジャーさんは、あまり日本語が分からないので、その分、交流に手間取ったが、それは、逆に小学生にとっては、興味を引いたようであった。小学校と中学校では、若干時間割のずれがあるが、少しぐらいのことは、テレビ会議を利用して簡単にすませるようにしたい。

5. 今後の方向

地域素材のVODデータベースの構築

・理科、地域素材特に地学領域

編集、説明書きなどを加えて、データベースに登録していききたい。

高速大容量回路を用いた学校間等の連携

・海外との情報交流

来年度も海外研修を実施する方向である。できるだけ早い段階に交流相手を決め、交流していききたい。ただし、シンガポールの中学校の学校制度が違っているため、問題もある。1つは、6月がシンガポールの大きな休みであり、こちらが本格的に交流する期間が限られる。また、夏休み以降、シンガポールの受験体制のため、あまり交流のできない事情もある。しかし、メールだけではなく、ホームページ作成などを通じた交流も実施していききたい。

・小中交流におけるテレビ会議システムの活用

本校の入学生である小学生の学校であり、今後いろいろなことで、交流が可能であると考えられる。小学6年生が入学準備のために情報収集をおこなったり、総合的な学習の中で、意見交流などが可能と考えられる。